Nara Women's University

コロナ禍におけるオンライン地域学習の試み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学文学部 公開日: 2022-04-18 キーワード (Ja): オンライン, コロナ禍, 地域学習 キーワード (En): 作成者: 浅田,晴久 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/5748

コロナ禍におけるオンライン地域学習の試み

浅田　晴久（奈良女子大学研究院人文科学系准教授）

１．はじめに

筆者は地理学と地域研究を専門としており、文学部の授業でもこれらの学問分野について教えている。地理学で用いられる方法論の1つに野外調査がある。野外に出かけて、地域の自然的現象、人文的現象を明らかにし、そこで得られた情報を基に空間の特性を考察することが学問の基本的な方法論となる。地域研究は、地理学とは地域に対峙する姿勢がいささか異なるが、やはり特定の地域に出かけて、一定期間の滞在を通して地域住民の価値観を習得し、地域の諸問題にみられる固有の論理を内側から明らかにしていくことを目的としている。いずれの学問の研究・教育においても、地域を深く理解するためには、教室での学習だけでなく、野外における調査、フィールドワークが必要とされる。

2019年12月に中国の武漢市でウイルスの存在が初めて確認され、2020年1月から世界中に広がった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、国内外でフィールドワークを実施することが非常に困難になった。ウイルスの感染を防ぐために、世界中の国・都市で域内封鎖（ロックダウン）が実施され、住民の行動は著しく制限された。COVID-19が爆発的に広まったイタリアやイギリス、アメリカ合衆国など欧米諸国に比べて、日本ではそれほど厳しい措置が取られたわけではなかったが、2020年2月27日にすべての小学校、中学校、高等学校と特別支援学校について臨時休校とする措置が出され、4月7日には全国を対象とする緊急事態宣言が出された。これにより、大学では当面の間、教室における対面授業を実施することが難しくなった。

奈良女子大学のCOVID-19への対応は他大学と比べて決して早くはなかったが、2020年4月3日に新型コロナ感染症対策会議（以下、対策会議）において、とりあえず連休明けの5月第2週まで、対面授業の全面禁止が決定された。4月から連休までの期間は補講期間とされ、この間にオンライン会議システム（Zoom、Cisco Webexなど）の練習、オンライン授業を見越した教材の準備、受講生への周知などを行うこととなった。4月27日の対策会議では、対面授業の禁止期間が5月末まで延期されることが決定され、本学で授業を担当する教員は、当面の間はオンライン形式で授業を実施することが決定的となった。

本稿は、未曽有のコロナ禍の中、筆者がどのような教育上の取り組みをしたのか、当時の記録を残すことを目的としている。2020年初頭に爆発的に広まったCOVID-19によるパンデミックは、本稿執筆時の2021年秋においても完全収束の気配を見せる様子がない。2021年の後期に入っても、一部の授業は対面で行うことができず、コロナ禍で授業内容の工夫・変更を強いられている状況である。本稿では2020年度と2021年度に筆者が担当した授業のうち、特徴的な地域学習の取り組みを行った科目について紹介する。

２．担当授業について

本稿で取り上げるのは、筆者が担当する科目のうち、文学部共通科目（概論科目）の地誌Ａと地誌Ｂである。両科目はともに前期（4月第2週から8月第1週までの15週分）に開講しており、ＡとＢを隔年で開講している。受講生は通常、25～30名程度である。地誌（学）とは、自然地理学、人文地理学と並ぶ、地理学を構成する分野の1つで、地域に内在する自然的要素、人文的要素の関連から、当該地域の特性、つまり地域性を明らかにする学問である。両授業では特定の地域を題材にとり、受講生が多面的な地域の見方を養うことを目的にしている。教室における講義だけでは地域の見方を養うことは限界があるため、両科目とも15週の授業計画の中に野外見学を組み込んでいる。

地誌Ａは、主として大学が所在している奈良県内の地域(奈良盆地、大和高原、吉野地方など)を題材に、ミクロスケールで地域の見方を養うことを目的としている。通常授業では、2回の野外見学を実施している。1回目は、さまざまな地図を見ながら、大学周辺を歩いて、身近な地域を普段意識しない視点から理解するというものである。授業時間内に実施するもので、受講生全員が参加する。2回目は、奈良交通バスで奈良市田原地区を訪問し、地域内を歩いて見学するとともに、自治会長や茶農家の方に話を聞くというものである。こちらは土日を利用して半日程度かけて実施するので、必ずしも全員が参加するわけではないが、約半数の受講生が参加する。

地誌Ｂでは、主として筆者が研究を行っている南アジア諸国（インド、バングラデシュ、ネパール、ブータンなど）を題材に、地域の特性が形成されるプロセスをマクロスケールで理解することを目的としている。通常授業では、1回の野外見学を実施しており、過去には国立民族学博物館（大阪府吹田市）の展示を見学しに行ったこともあったが、ここ数年は神戸市にあるシーク教寺院(Gurdwara Guru Nanak Darbar)を訪問している。神戸市中央区の住宅街の一角にあるこの寺院では、毎週日曜日に礼拝と共同食堂（ランガル）が開催されており、関西在住のインド人が多数集まるが、信者でなくとも誰でも参加できる。外国人に囲まれる中で礼拝と食事を体験して、運営に携わるインド出身の方に話を聞くことで、異文化に触れることができる貴重な機会となる。こちらも約半数の受講生が参加する。

2020年度前期に開講した地誌Ａ（受講生26名）、2021年度前期に開講した地誌Ｂ(受講生27名)ともに、COVID-19の影響を大きく受けたため、前述の野外見学を実施することができなかった。そこで、両科目では、オンライン会議システムを活用することで野外見学の代わりとなる学びの場を確保することになった。

３．地誌Ａにおける取組

地誌Ａでは、オンライン会議システムを活用した野外見学を実施した（図1)。これは、従来、受講生全員を連れて徒歩で大学周辺を歩きながら見学した活動を、完全オンラインに置き換えた取り組みである。世界中でヴァーチャル旅行なるものが人気になっていることを知るのは、ずっと後のことであるが（朝日新聞2020)、世間の流れを先取りする形で、いわばヴァーチャル巡検とでも呼ぶべきものを実施したことになる。タイミングとしては5月の連休が明けて2回目の授業回にあたる、2020年5月14日であり、オンライン授業の実践方法について、教員間でもまだ試行錯誤が続いていた段階であった。後から振り返ると、オンライン授業についてほとんど分かっていない段階であったからこそ、新しいことに挑戦することができたと言えるだろう。

図１　オンライン野外見学の様子（YouTubeにアップロードした動画のスクリーンショットより）

野外見学の経路は、奈良女子大学の正門前から出発し、県立文化会館、興福寺、猿沢池、餅飯殿商店街までである。2万5千分1地形図（平成27年発行)、旧版地形図（大正14年発行)、都市圏活断層図、和州奈良之図、など複数の地図を見比べながら、歴史的な町割、地形の高低差、活断層の位置、河川の流路などを確認していく内容とした。通常の授業では、学生には歩いている途中で景観写真を撮影させて、写真とともに気づいたことを書いて、授業後にミニレポートを提出させる。

オンラインで野外見学を実施するにあたり、遠隔会議システムのZoomを使用した。Zoomのアプリケーションをあらかじめ教員のスマートフォンにインストールしておくことで、Zoomミーティングに参加している受講生に、教員の音声と映像を、場所を問わず配信することができる。野外でZoomアプリを使用する際に気になるのが音声面である。スマートフォンのマイクが周囲の騒音を拾ってしまうため、話者の音声がクリアに聞こえなくなる可能性がある。そこでマイク付きのワイヤレスイヤフォンを使用し、スマートフォンとBluetoothで接続することで、余計な音を

拾うことなく、話者の声をマイクからスマートフォンに入力することができた。イヤフォンはZoomミーティングに参加している受講生からの発言を耳元で聞くことができるという利点もある。

スマートフォンを使用するにあたり、通信ネットワーク速度とバッテリー残量にも注意する必要がある。通信ネットワークは、奈良公園付近では奈良県が提供している公衆無線LANサービス「NARA Free Wi-Fi」が利用できることを確認していたが、公衆無線LANに切り替える際にZoomミーティングが途切れることが分かったので、結局、スマートフォン用に個人で契約している通信会社の4Gネットワークを使用した。通信速度は問題なく、通信容量制限に引っかかることもなかった。バッテリーに関しては、大容量のモバイルバッテリーで充電しながら使用することで、バッテリー切れを防止した。

スマートフォンでZoomを使用することで、1人でも撮影しながら授業を配信することが可能になるが、歩いている最中に地図を用いて説明する必要があったので、所属コースの大学院生に協力してもらい、やや離れた位置からスマートフォンで筆者の姿を撮影しながらついてきてもらうことにした。これで筆者はスマートフォンの操作を気にすることなく説明に集中することができるが、その代わりに困ったこととして、自分でZoomの画面を見ることができないので、参加者からのコメントや反応をすぐに確認できないということがあった。事前練習の時間がないままに当日に挑んだが、アシスタントの学生と事前にZoomの使い方を練習して、役割分担を決めておく必要があるだろう。

14時40分の授業開始と同時に野外中継を開始して、16時前にはすべての行程をこなして予定どおりに終了した。あらかじめ録画映像をクラウドサーバーに保存する設定にしておいたので、Zoomミーティングが終了すると自動的に動画ファイルが生成された。大学の研究室に戻り、PC上で動画ファイルを確認して、簡単な編集を施した後に、毎週の授業映像と同様に、動画投稿サイトYouTubeにアップロードして、いつでも後から映像を見返すことができるようにした。受講生には、野外見学をヴァーチャルで体験した感想や大学周辺地域の特徴について考えたことをまとめて、manaba folioから提出するように指示した。学生の感想としては、従来の野外見学時と大差ないものが提出されており、オンライン会議システムを活用することで、コロナ禍でも地域学習を実施することがじゅうぶん可能であることが分かった。

野外における授業でもオンライン会議システムが利用できたことで、オンラインによる地域学習の大きな可能性を感じることができた。オンライン学習では通常、受講生は自宅か空き教室でPCなどの機器をネットワークに接続することで、授業に参加することになる。講師も自宅か研究室から授業を配信するのが一般的であるが、配信する場所を固定する必要はまったくない。ネットワーク接続さえ確保できれば、授業を受ける側も伝える側も自由に場所を選ぶことができる。これにより、野外から実況中継の形で配信することもできるし、国内出張や国外出張の合間にホテルや店舗で授業を行い、現地の今の様子を生々しく伝えることもできる。オンライン授業によって通学にかかる時間が不要となり、学生の時間に余裕が生まれたという声も聞かれるが、教員にとっても授業期間中に大学内にいる必然性が低くなり、教育・研究に対する時間のかけ方を変えられる可能性がある。ただし、野外で授業をする際は、下見や通信ネットワークの確保など、それなりの事前準備を必要とするので、頻繁に行えるというわけではない。

当該授業は2020年度前期で終了したが、ヴァーチャル野外見学の録画映像はその後も別の機会で活用された。1つ目は、奈良女子大学附属中等教育学校（以下、附属学校）においてである。附属学校では奈良女子大学と連携して令和元（2019）年度より、5・6年生（高校2・3年生相当）が合同で探究活動を行う文理統合探究コース「PICASO」を開設している。このコースの生徒向けに、奈良女子大学の3学部（文学部・理学部・生活環境学部）より教員が2名ずつ授業を提供することになっている。筆者は2020年のPICASOコースの授業を11月に担当することになったので、身近な地域の見方について講義することにした。生徒になじみのある地域を題材に説明するのがもっとも分かりやすいと思われたので、上述のヴァーチャル野外見学の録画映像を生徒に見せながら、地形や町割について解説した。

2つ目は、本学の国際交流センターが実施しているオンラインプログラム「そらみつ」においてである。国

際交流センターは毎年、奈良女子大学と協定を結んでいる海外の大学に在籍する学生向けに、奈良を訪問して学習する短期研修を実施しているが、コロナ禍で訪日が難しくなったことから従来の対面形式の研修は中止とし、代わりにオンラインプログラムの企画が検討された。オンラインプログラムの科目の1つとして、筆者は「奈良の地理（Geography of Nara）」を担当することになり、上述のヴァーチャル野外見学の録画映像を提供した。本プログラムの対象学生は、日本には関心があるものの実際に日本を訪問したことがない者がほとんどで、奈良女子大学の周辺という非常にローカルな地域の映像を見てどこまで理解できるか、やや懐疑的ではあったが、後日に提出された感想を見る限りは、よく分かった、面白かったというものが多かった。オンラインによる授業記録を動画として残しておくと、予期せぬ場面で再利用できる可能性がある。

４．地誌Ｂにおける取組

2021年度の前期もCOVID-19の国内第4波の煽りを受けてオンラインで授業を行うことになったため、翌年に担当した地誌Ｂにおいてもオンライン会議システムを活用して新たな取り組みを行うことを検討した。本授業はインドおよび南アジアの地域的特徴を理解することを目標に掲げているが、野外見学でインド文化に触れる機会を設ける代わりに筆者が考えたのが、インドの大学とオンラインで繋がる交流イベントである。オンラインという間接的な形ではあるが、受講生がリアルタイムで画面の向こうの「インド」に触れる機会を設けることを目指した。

交流イベントを実施するにあたり、筆者が協力を要請したのが、インド・アッサム州にあるゴウハティ大学（Gauhati University）の教員である。筆者は2004年以来、COVID-19が蔓延する直前の2020年3月まで毎年この大学を訪問しており、2007年から2011年までは同大学地理学科の博士課程に籍を置いていたこともある。学科の教員は全員が顔なじみであり、普段からメールやSNSで頻繁にやり取りをする間柄である。筆者がオンラインの企画を打診すると快く引き受けてくれるだろうという確信はあったが、声をかけるタイミングをやや躊躇することになった。

インドでは2020年1月の最初の感染報告以来、人口比でみると比較的感染数を抑えることに成功していたが、2021年4月に感染の第2波を迎えることになり、ピーク時の5月第1週には1日の新規感染者数が40万人、死者数も4,000人を超えるほど事態が悪化した。状況はアッサム州でも同じであったため、オンライン企画を実施できるかどうか判断に迷ったが、6月に入ると感染状況が落ち着いてきたため、連絡をとることにした。こちらの希望を伝えると、先方の大学では6月半ばまでは試験期間で忙しいということであったので、その期間を外して日時を設定することになった。試験期間終了後は授業がないため、比較的都合がつくということであった。さらに、学科のイベントとして周知してもらえることになった。

事前に懸念したことが、本学の学生の語学力の問題である。インドでは高等教育はすべて英語で行われており、大学に進学する層は高い英語運用能力を身につけている。早口で、インド独特の訛りがあるため、英語に慣れている日本人でも、相手の発言を瞬時に聞き取って、内容を頭の中で理解して、適切に返答することは困難である。まったくの準備なしで日本人学生がインド人学生と英語でコミュニケーションがとれるとは思えなかった。そこで、双方から事前に質問を集めておき、回答を英語で考えてもらうことにした（表1）。

交流イベントは2021年6月24日に実施した。インド側が我々の都合に合わせてくれたので、本来の授業時間である14:40-16:10（インド時間の11:10-12:40）に実施でき、受講生は全員が参加した。すでに本学では6月21日より一部の授業で対面方式が再開されていたが、全員パソコンないしはモバイル端末で参加することとした。前後の授業の関係で、学内でオンライン授業に参加する場所が確保できない学生に対しては、空き教室を開放して、そこで学内無線LANにつなげて参加できるように配慮した。

セッション中の実際のやり取りとしては、双方から寄せられた質問を1つずつ取り上げて、それに回答していくという方法をとった。インド側から出された質問に対しては、あらかじめ筆者が担当を割り当てていた日本人学生が回答を英文で用意していたので、それを読み上げる形で対応できた。興味深かったのは、日本側から出された質問に対して、インド人学生がなかなか答えようとしなかったことである。質

問自体は、コロナ禍のオンライン授業の方式や、普段の昼食など、決して答えづらい内容ではない。事前の予想では、日本人に比べてインド人は一般的に積極的で話好きであるため、我こそは質問に答えたいと手を挙げるインド人学生が殺到して収拾がつかなくなるのではと懸念していたが、まったくそのようなことはなかった。インド側の教員が促してようやく手を挙げる学生が現れる場面が多かった。

インド人学生の英語は流暢かつ早口であるため、回答内容を日本人学生が即座にすることはやはり難しいものがあった。そこで、筆者が聞き取った内容を、Zoomのチャットに日本語で書き込むことで対応した。また、インド人学生にも積極的にチャットを利用するように呼び掛けたおかげで、日本人学生からも自分の意見をチャットボックスに書き込む者が何人も現れて、充実したやり取りができた。

終了後は、録画保存したZoomの映像をYouTubeにアップロードして、参加者が閲覧できるようにした。また、Zoomではチャットの記録もテキストファイル形式で保存されるので、そのファイルも共有した。YouTubeに動画をアップロードする利点としては、早送り・巻き戻し、再生速度の変更以外に、字幕機能・翻訳機能が利用できることがある。交流イベントに出席した日本人学生には、当日のやり取りを踏まえて気づいたことをレポートとしてまとめる課題を出したが、リアルタイムでは聞き取りづらかった点も、後からYouTubeの字幕・翻訳機能をオンにして映像をゆっくり見返すことで、参加者の発言内容を理解することができたようである。

５．おわりに

本稿では、筆者が2020年度、2021年度に実施したオンライン授業の実践例を紹介した。2020年4月以降、対面の授業や会議が困難になり、オンライン会議システムの利用が大学でも急速に進んだ。このシステムを利用することで、従来の授業で実施していた地域学習をある程度代替できることが分かったが、受講生が地域に出かけられない状況は変わらず、100%代用することは不可能であろう。

現時点では、教員が配信する授業を、自宅や学内の空き教室にいる学生が受講するというスタイルが主であるが、このシステムを応用すれば、将来的には、たとえば、教員が国内外の地域に出かけて、その場所からリアルタイムに配信する、ないしは現地で映像を録画することで、授業や講演に活用することも可能になるし、反対に、学生が国内外の地域に出かけて、現地から日本の大学にいる教員とつないで調査報告や発表会を実施したりすることも考えられる。オンライン会議システムは大学での学びを根本から変える可能性を秘めており（吉見2021）、単に従来の講義や実習の代用と考えるのではなく、これを利用して、まったく新しい地域学習の形態を模索していくべきだろう。また、教育だけでなく、現地在住のインフォーマントとオンラインで繋げて話を聞くなど、さまざまな調査研究にも応用可能であると思われる。

一方で、オンライン会議システムは、その利用法さえ習得すれば、すぐに効果的な授業ができるというわけでもなく、野外で使用する際の注意点や現地の協力者との打ち合わせなど、実施に当たっては教員による入念な準備が必須である。結局、オンラインツールはあくまでも手段の1つであり、どのような授業を実施するかは、教員側の工夫が重要になってくる。また、インターネット回線にアクセスできない、機器を用意できないなど、学生への配慮も必要になってくる。日本では学生が個人のノートPCを所有し、学内の無線LAN回線につないで授業を受けるというスタイルが当たり前になりつつあるが、インド人学生はほとんどがスマートフォンで参加しており、発言の途中で通信回線が途切れることも頻繁にあった。すべての受講生に等しく教育の機会を保証できているか、教員は注意しないといけない。

本稿ではオンラインを活用した地域学習の取り組みを紹介したが、筆者が担当している他の授業や卒業論文の指導では、COVID-19のせいで従来の地域学習や地域調査が不可能になり、さまざまな修正を強いられていることも多い。たとえば、従来は宿泊をともなう見学であったものを短縮して日帰り見学にしたり、対面のインタビューが不可能なのでメールで先方の話を聞いたりする、などである。COVID-19の影響は当面の間継続すると思われるので、多数の実践例を集めて（たとえば亀井2021）、パンデミック下の授業を少しでも充実したものにしていく努力が求められるだろう。

文献

朝日新聞「コロナで修学旅行が一変　VR体験や地元再発見で工夫も」2020年11月26日。
亀井伸孝「新型コロナウイルス感染症流行状況におけるフィールドワーク教育 2020年の授業実践」共生の文化研究15, 5-6頁、2021年。
吉見俊哉『大学は何処へ 未来への設計』岩波書店、2021年。

表１　オンライン交流会で双方の学生から寄せられた質問

Q1 What is the form of university classes during COVID-19 lockdown? Do you have any ideas for enjoying online classes?
Q2 Which language do you learn other than English in school?
Q3 What is the ratio of male to female students in Indian university today? Do women have access to higher education in India?
Q4 How did you choose your university?
Q5 How do you spend vacation time in colleges in India?
Q6 Where do you plan to work in the future, in local places or in the big cities (or abroad)?
Q7 What do you want to be in the future? What did you want to be in the future when you were a child?
Q8 Do Indian students have a romance like Japanese students? How do they find a boyfriend or a girlfriend?
Q9 What is popular among Indian students nowadays (especially in pop-culture like cartoon)?
Q10 These days Korean style makeup is popular in Japan, what kind of makeup is popular in India?
Q11 Are Assamese people familiar with tea? In Japan, most people prefer to drink tea, but how about in India?
Q12 What do you eat for lunch? Do you bring lunch to college?
Q13 What kind of snacks do you eat in India? How is its appearance and taste?
Q14 I have heard there is an oven called Tandoor in India. Even now, do they use it in daily lives?
Q15 What is your most favorite food?
Q16 Have you eaten any Japanese foods?
Q17 What do you think about the attraction or appeal of India?
Q18 Which do you like better, the rainy season or the dry season?
Q19 Which festival do you like the best? Does everyone from children to elderlies usually take part in festivals?
Q20 Do you agree or disagree with coming Olympic Games held in Japan during the coronavirus pandemic?
Q21 Japanese people often participate in occasions of other religions which they do not have faith. What do you think about it?
Q22 What kind of impressions do you have about Japan?
Q23 What is your image of Japanese people?
Q24 Could you tell us about your images of Japan?
以上、奈良女子大学学生からGauhati University学生への質問。

Q1 What are the educational steps taken by your university to get effective results during this pandemic situation?
Q2 Tell us about the educational system of Japan?
Q3 What does a Japanese student do after doing masters?
Q4 Why did you prefer Women’s University over co-educational Universities? Tell us about your University.
Q5 What scope does Nara woman's university provides for international students?
Q6 Japan is a very advance county, does the university teaching-learning processes shows unique dimensions technologically?
Q7 What is the pattern of the course of the University for P.G. students?
Q8 How are the practical classes conducted online during this pandemic?
Q9 What are the different associated activities and programs for the students to make education more value based and interesting?
Q10 How is field work carried out in Japan?
Q11 Please tell us about scope and important areas of the research field in geography in Japan.
Q12 What is the status of women in Japan? Is there gender discrimination in Japan as seen in many other countries?
Q13 Which is the best season to visit Japan?
Q14 As a quarter of Japan’s population is above 65 years so how does Japan deals with its aging population?
Q15 How do you spend your summer/winter vacation?
Q16 Tell us about the family bonding among the Japanese people.
Q17 What is the purpose of the tea ceremony of Japan? How it is done?
Q18 What is the impact of westernization on the Japanese youth? Are you also interested in BTS like the youths of our region?
Q19 How religious are Japanese people?
Q20 Tell us something about your food habit and dress pattern both traditional and modern.
Q21 Tell us about your marriage system.
Q22 Highlight on the cherry festival of Japan? And tell the best time and places to visit in Japan.
Q23 Can you tell us the mitigation measures against earthquakes adopted by you or what do you do during an earthquake?
Q24 What is your impression on social networking? Which social networking media do you use?
Q25 What is your impression about the people of Assam (India)?
Q26 Do you wish to visit India, if yes which places and why?
Q27 Administrative system of Nara University.
Q28 What are the available internship courses opted for subjects like geography in Japan?
Q29 What is the meaning of the term Nara?
Q30 What are the accommodation facilities of the students in the university?? Hostels or p.g. or rents?
Q31 What does Geisha and Kabuki traditional makeup look signify?
Q32 Is Japan a safe country for women?
Q33 What is the secret behind Japanese glowing skin and good health?
以上、Gauhati University学生から奈良女子大学学生への質問。